

検査部

1 構 成 員

	平成23年3月31日現在
教授	0人
准教授	0人
講師(うち病院籍)	0人 (0人)
助教(うち病院籍)	2人 (2人)
助手(うち病院籍)	0人 (0人)
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	0人 (0人)
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	30人
その他(技術補佐員等)	10人
合計	42人

2 教員の異動状況

飯野和美(助教)(H17.4.1～H19.3.31 助手；H19.4.1～現職)

藤澤朋幸(助教)(H22.4.1～現職)

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成22年度
(1)原著論文数(うち邦文のもの)	8編 (4編)
そのインパクトファクターの合計	17.17
(2)論文形式のプロシーディングズ数	2編
(3)総説数(うち邦文のもの)	0編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4)著書数(うち邦文のもの)	2編 (2編)
(5)症例報告数(うち邦文のもの)	0編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	0.00

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Iino K, Oki Y : Yamashita M, Matsushita F, Hayashi C, Yogo K, Nishizawa S, Yamada S,

Maekawa M, Sasano H, Nakamura H : Possible relevance between prohormone convertase 2 expression and tumor growth in human adrenocorticotropin-producing pituitary adenoma.

Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism 95(8) : 4003-4011, 2010

2. Fujisawa T, Chang MM, Velichko S, Thai P, Hung LY, Huang F, Phuong N, Chen Y, Wu R : NF-kB Mediates IL-1b- and IL-17A-induced MUC5B Expression in Airway Epithelial Cells.

American Journal of Respiratory Cell and Molecular Biology , 2010

3. 飯野和美, 沖隆 : 【内分泌腺腫瘍 基礎・臨床研究のアップデート】

副腎腫瘍 副腎腫瘍 の治療 薬物治療 Cushing 症候群

日本臨床 69(2) 内分泌腺腫瘍 550-554,2011

4. 飯野和美, 沖隆 : 【内分泌腺腫瘍 基礎・臨床研究のアップデート】

間脳・下垂体腫瘍 間脳・下垂体腫瘍の治療 薬物治療 ACTH 産生腫瘍 (Cushing 病)

日本臨床 69(2) 内分泌腺腫瘍 202-206,2011

5. 飯野和美, 沖隆 : 【ER・ICU での薬の使い方 Q&A2011-'12 プロの実践と秘訣に学ぶ】

代謝・内分泌疾患の緊急治療 副腎皮質機能亢進症 / 副腎皮質機能低下症 / 急性副腎不全 (クリーゼ) 救急・集中治療 23(1-2) 307-311,2011

インパクトファクターの小計 [10.521]

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Suda T, Kono M, Nakamura Y, Enomoto N, Kaida Y, Fujisawa T, Imokawa S, Yasuda K, Hashizume H, Yokomura K, Toyoshima M, Koshimizu N, Suganuma H, Shirai T, Hashimoto D, Inui N, Colby TV, Chida K : Distinct prognosis of idiopathic nonspecific interstitial pneumonia (NSIP) fulfilling criteria for undifferentiated connective tissue disease (UCTD). Respiratory Medicine 104(10) : 1527-34, 2010

2. 沖隆, 飯野和美 【内分泌腺腫瘍 基礎・臨床研究のアップデート】

副腎腫瘍 副腎腫瘍の病態生理と臨床像 Cushing 症候群. 日本臨床 69(2) 内分泌腺腫瘍 489-492, 2011

インパクトファクターの小計 [2.331]

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Lee YC, Oslund KL, Thai P, Velichko S, Fujisawa T, Duong T, Denison MS, Wu R : TCDD Induced MUC5AC Expression: Aryl Hydrocarbon Receptor-Independent/EGFR-Dependent MAPK Signaling Pathway. American Journal of Respiratory Cell and Molecular Biology, 2010

インパクトファクターの小計 [4.319]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. 高田知治, 余語宏介, 山下美保, 飯野和美, 沖隆, 中村浩淑: 腰椎圧迫骨折を合併した若年 Cushing 症候群の 2 例 ACTH RELATED PEPTIDES (1340-4512)21:101-103, 2011
2. 余語宏介, 沖隆, 飯野和美, 山下美保, 林千雅, 末永叔子, 中原大一郎, 中村浩淑: Neuropeptide W の脳室投与は CRF を介して HPA 系を活性化する ACTH RELATED PEPTIDES (1340-4512)21: 17-18, 2011

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 飯野和美, 前川真人: 13) リン脂質 14) LCAT 15) ACAT 16) CETP 17) 過酸化脂質 18) グリココール酸 19) 総胆汁酸 20) 尿中硫酸抱合型胆汁酸 21) 遊離脂肪酸 22) EPA/DHA 中原一彦監修『パーフェクトガイド検査値辞典』総合医学社 東京、2010
2. 藤澤朋幸: 特発性肺線維症、膠原病肺、杉山幸比古編、医薬ジャーナル、大阪、251-261、2010

4 特許等の出願状況

	平成22年度
特許取得数(出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

	平成22年度
(1) 文部科学省科学研究費	2件 (187万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	1件 (60万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	0件 (0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 石川仁子(代表者) 若手研究(B)
癌の体細胞変異の高感度検出法(AL-COLD-PCR-SSCP)の開発と臨床応用
H22～H24、130万円(新規)
2. 岩原邦宏(代表者) 奨励研究
甲状腺ホルモン検査値に影響する非特異反応を検出するための基準設定に関する研究
H22、57万円(新規)

(4) 財団助成金

1. 飯野和美(代表者) 公益信託臨床検査医学会研究振興基金
悪性褐色細胞腫のオミックス解析による予後予測マーカーの探索
H22～H23、60万円

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	1件
(4) 学会開催回数	1件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	3件
(6) 一般演題発表数	3件	

(1) 国際学会等開催・参加

1) 国際学会・会議等の開催

1. 近藤 光 第7回チェリーブLOSSAMシンポジウム (The 7th Cherry Blossom Symposium)、事務局長、横浜、2010/4、250名

5) 一般発表

ポスター発表

1. Iino K, Yogo K, Yamashita M, Maekawa M, Oki Y, Nakamura H : Malignant pheochromocytoma with severe intestinal paralysis based on a significant hypercatecholamine state : The effectiveness of α - metyrosine in dysmotility of digestive tract.
92th Annual Meeting ENDO 2010/6 San Diego, USA
2. Hamada E, Iwahara K, Uchiyama S, Kondo T, Maekawa M : Thyroid function testing and tumor marker by LOCI technology on dimension Vista.
American Association for Clinical Chemistry 2010/7 Anaheim, USA
3. Hamada E, Kondo T, Maekawa M : Preanalytical Interference Factors with Laboratory Testing for Specific Health.
The 12th Asian-Pacific Congress of Clinical Biochemistry 2010/10 Seoul, Korea

(2) 国内学会の開催・参加

4) 座長をした学会名

1. 濱田悦子 第49回日本臨床検査医学会 東海・北陸支部総会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 飯野和美 日本内分泌学会 評議員
2. 濱田悦子 日本臨床検査医学会 評議員
3. 濱田悦子 日本臨床化学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国

学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	0件	0件
-------------------	----	----

9 共同研究の実施状況

	平成22年度
(1)国際共同研究	0件
(2)国内共同研究	0件
(3)学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成22年度
産学共同研究	0件

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 原発性アルドステロン症患者における頸動脈超音波による IMT 値と、動脈硬化バイオマーカーの測定

本態性高血圧患者との比較および治療による高アルドステロン状態の改善による各種データの改善について比較検討し、本症において血圧因子以外に高アルドステロン状態そのものによる動脈硬化リスクが増大する可能性を提示した。

(飯野和美)
2. 下垂体 ACTH 産生腫瘍（クッシング病）の腫瘍侵襲性と、ホルモン合成プロセシング蛋白についての研究

腫瘍内に PC2 が発現することで腫瘍増殖関連タンパクの活性化が促進され、その結果臨床的に侵襲性の高い腫瘍となる可能性を報告した。

(飯野和美)
3. 悪性褐色細胞腫の転移形態の解明、転移プロセスとその周辺の関与因子についての研究

現在褐色細胞腫瘍の手術摘出検体を収集し、患者背景との照らし合わせを行っている。

(飯野和美)
4. 気管支喘息発作時における気道粘液過剰産生増悪メカニズムの解明とその抑制法の開発

気管支喘息発作時における粘液過剰産生は気道閉塞の一因となる。喘息発作時における粘液産生亢進には、前炎症性サイカイン (IL-1 β , IL-17), TLR ligands - NF- κ B 経路、IL-4,13 - STAT6 経路などの各因子や経路が複合的に作用し、気道ムチン (MUC5AC, MUC5B) 発現を疾患安定期より強力に誘導し粘液過剰産生を増悪させると推測される。気管上皮細胞初代培養系と正常ヒト気管上皮 cell line を用いて、IL-1 β , IL-17, PolyIC (TLR3 ligand) は気道上皮における MUC5AC 発現を誘導することが明らかとなった。今後、複数因子の共刺激による相加相乗的ムチン発現に関して検討する予定である。

(藤澤朋幸、前川真人)